

もう少し早く見つけていれば…  
そんな悲しい声を  
ひとつでもなくすために、  
免疫力について考える。

## 対談○白井常雄×丹羽耕三

写真・文／アオバ広報室「会場／帝国ホテル」

自然はすごい、と誰もが思っています。

人知の及ばないエネルギーと、  
どんな科学よりも精密なメカニズムを持つていては、  
誰もが知っています。

それなのに人間は時としてその眞実にさからい、  
化学薬品で病いの巣を打ち負かそうと、  
愚かな失敗をくり返しています。

丹羽耕三博士がしていることは、ただひとつ。  
自然に心から敬意を払うこと。

自然が私たちにもたらす力ができる限りそこなわずに  
体内に届けるということです。

世の中にはやりすたりに左右されない

丹羽耕三博士の極太な生き方。

二十八年間、それに魅了され続けてきた白井常雄が、

あらためて、師に問う。免疫力とは？



原始人にはね、  
ガンも無ければ  
膠原病も無い。  
死ぬのは老衰と寄生虫が  
原因なんだよ。



白井：丹羽先生は「自然の仕組みに適いながら、免疫力で人間本来の健康を取り戻せる」という信念で、SOD様食品を開発され、今までやつてこられています。

現在、企業が大勢の社員や従業員の健康を管理するにあたって、企業自らお金を投資してでも、守らなければいけないというところに、ようやく辿り着きました。

健康経営が注目され始めると保険会社も含め、色々な業態が一齊に動き出すのですが、対症療法で健康経営をケアするというのは、病気にならないと事が始まらないだけにとても難しい。ところが丹羽式免疫療法は未病の人たちや生活習慣病の人たちに対しても威力を發揮しますから、まさにこれからが正念場と私は踏んでいるんです。

### 免疫力について考えだしたのは

ところで先生が一番最初に「免疫力」に着目した経緯を教えてください。普通、臨床医でしたら、免疫のことは考えずに、病気を治すことだけを先に考えますよね？

丹羽：原始人にはね、ガンも無ければ膠原病も無い。死ぬのは老衰と寄生虫が原因なんだ。昔のようにストレスが無い自然な暮らしをしていればバイ菌が入ってきても、それを叩き潰す白血球の力が強いからね。病気が起こりかけても、リンパ球が強いからそれを抑えてね、自分で治す力があつたんだな。

なぜ、最近になつてその力が無くなつたか。それは火を使うことが原因になつてゐるんだ

神様は人間の体を守るようにしてくださつて、胃液が強いときはそれらが薬になつた。

今時代の植物に特殊加工を施し、その頃の人体環境を取り戻せば病気がなくなるはずだと思い、遠赤外線焙煎や発酵、油剤化を施したSOD様食品を作った。

原料は大豆、胡麻、小麦、抹茶、はと麦など、

普段からみんなが食べているものなんだ。僕が難病に使つてゐる天然の漢方薬にも全部に焙煎、発酵、油剤化でチエーンを切つて、薬になるようにしてゐる。

白井：先生は子の父親として、ドクターとして、剛士君の死という切ない体験の中で、「自然でなければダメなんじや」という確信を得られたわけですか。

丹羽：化学薬品は何の力にもならん。体を傷めていくだけ。

白井：生化学者になるか、お医者さんになるかの選択に迷いはなかつたのですか？

丹羽：好きだった、好きだった。

白井：生化学者になるか、お医者さんになる

丹羽：生化学者では食つていけんからな。

白井：なるほど、食べていくために諦めたわけですね。でもお医者さんになつても生化学者への道は忘れられなかつたでしよう？

丹羽：だから、僕は一緒にやつたわけや。両方一緒にな。大学におつて、親方の下に付いていたらそんなこと出来へんから、自分でやろう思つて。それで自分で病院を持つて、自分で実験室持つてやつたわけ。

白井：多忙を極める日赤の勤務医時代からでしたよね。

丹羽：自分で物置部屋を改造して実験した。

白井：それで体を壊し、土佐へ転地療養に。

丹羽：そうそう。

### 体を酷使したすえの結果

白井：私も先生と27年間、ご一緒にやつてきながら色々と学ばせていただいてるんですけど、先生は臨床医としての顔もすごいんですね。天才的な臨床医だと思うのですが、片や生化学者としても際立っている。

私たちの仲間に東大理学部出身でNTTの研究員をやつていたのが、先生の論文を見て、「この方はドクターではなく、生化学者として世界的にも凄いことを見つけ、それを実践してみえる。なのに世間がそのことに注目していないというのが不思議なんだが、そのことを先生に聞きたい」と言つているのですよ。

丹羽：ははっ、そりや、この世界のやきもち。

白井：ああ、やきもちなんですか。

丹羽：みんな自分が出来ないから、自分よりだつたんですか？

丹羽：そりや、研究の成果だよ。

白井：先生、古い話なんですが。ちょっと思い出してももらいたいのですけど。

30年前にSODを開発したとき、ペーチェット病がフリーラジカル、いや活性酸素が原因だというのを気付かれたんですよ。それは閃きだつたのですか？ それとも研究の成果だつたんですか？

丹羽：べーちエット病はね、好中球という細胞が悪さしとるということはわかつてた。普通の健康な人の形じやなしに、何か異常な形しとるんだな、白血球の好中球が。じつのところ活性酸素を出すのは好中球なんや。異常な形をしとる好中球だつたら、おそらく活性酸素を出しとるやろうと。それでペーチェット病の患者の活性酸素を調べ出した。

白井：そのときはすでに論文に出していたんですね。

丹羽：出していた。僕の国際医学会第一号の論文や。

白井：実際には当時、厚生省のプロジェクトドクターとして、先生は難病班の一員として認められていたんですよね。

丹羽：先生は当時のこと忘れているかもしれないけど、「学会でな、わしがこの説明するときに、10分間はフリーラジカルの説明をせいや」といふまでは当たり前に使われている活性酸素という言葉。じつは30年前、先生がはじめて使いだしたんですよね。

その時はね、俺のやつてることを周りは認めようとしないんだけど30年や40年後にみんながやり出してる。



話がはじまらなかつた』って言つてましたね。

白井：当時はみんなが知らんから。

白井：ううですね。僕の記憶では、二重酸素や過酸素。はたまた過酸素に殺人酸素と色々な言葉で呼ばれていたんだけど、先生は「わしは、活性酸素がなんか一番ピッínと来るような気がして、これを使うんじや」って言つてましたよね。あのとき、もし言葉に商標登録権というのがあつたら、活性酸素という語句は丹羽耕三の商標登録みたいなことが起き、時代も医学界も相当変わつたんじゃないかと思うのですが。

丹羽：『活性酸素』という呼び方は誰も言うてなかつたね。そういう言葉は、もちろん学問にあつたけどね、誰も使つていなかつたな。

白井：そうですね。私の記憶間違いではなかつたんだ。先生が本に書き、それをメディアが取り上げ、それが今、一般用語になつて

いるという事実。これは知られざる先生の功績ですよ。

丹羽：まあ、僕の言うてること。「十分な睡眠、正しい食事、適度な運動」ね、これは相当意志の強い人でないと出来ないよ。大抵な人はそれだけでかなりの効果が出てくると思うんです。どう思われますか？

丹羽：まあ、僕の言うてること。「十分な睡眠、

病というのは、我々のターゲットになるところだと思うのです。現実的には免疫力を増進させるために、先生が講演会でいつも言つて

いる「十分な睡眠、適度な運動、バランスのとれた食事、過労・ストレスをさける」とい

うより、私はSODを飲んでいただければ、それが。どう思われますか？

丹羽：相撲の宮城野親方の件についてちょっと

先生に聞きたいんですけど。親方の糖尿病はかなり進行してから先生のところにいらして

出来ない、三日坊主。

だから、SODだけ取つとけ！ということ

じや。健康に元気に生きて、人よりね、すぐ

れて生きていこう思つたらね、人並みの事しどつたらダメなの。人のやらんことをやること。

白井：相撲の宮城野親方の件についてちょつ

と先生に聞きたいんですけど。親方の糖尿病はかなり進行してから先生のところにいらして

出来ない、三日坊主。

丹羽：何でも俺のやつてることを30年、40年後にはみんながやり出してる。

白井：さきほどNTTの彼が、「先生は20年、30年前にすでにこのことをやつていた。

これはノーベル賞以上ですよ」と言つてました。

僕は専門家にそういう風に言われて、改めて先生の凄さを身内として感じさせてもらつたんですけど。

丹羽：何でも俺のやつてることを30年、40年後にはみんながやり出してる。

白井：ああ、あいつは食うからダメだよ。僕の言うことを守らんから。

白井：でも今は元気になられていていますよね。この前のアオバ創立25周年の時に来ていただき、「先生は神様以上の存在だ」と親方が仰つた。

僕は専門家にそういう風に言われて、改めて先生の凄さを身内として感じさせてもらつたんですけど。

丹羽：私の仲間も糖尿病でね。血糖値がどうのこうのと言つてるんだけれど、この連中は守らないですね。タバコは吸う、お酒飲む。それから肉をバカバカ食べる。

丹羽：やつぱり歩くとかね、守らなきやいかんよ。何にも守らんかったら、ようもならんですよ、ただSODだけだつたら。

白井：先生のように30分以上歩くとかね。いつも先生が仰つている、四つの健康指針といふものをきちんと守るといふことにプラス、SOD。これを一緒にやつていかないといけない。

丹羽：それをやつて初めて健康になる。それもせず、肉ばっかり食つてたらとんでもない。折角SODをたくさん飲んでいても、じつとしどつたら回転せんわ。

白井：健康指導員とか、ヘルスアドバイザー。何かそういう指導員養成講座を、今年から始めていこうと思うんですけど。丹羽式免疫療法にのつとつた指導員という形でね。その意味においては、やつぱり免疫力を高めるというのが必要だと思うんです。

先生、もう一つは意識とか心の問題。スト

たのですよね？

丹羽：ああ、あいつは食うからダメだよ。僕の言うことを守らんから。

白井：でも今は元気になられていてますよね。この前のアオバ創立25周年の時に来ていただき、「先生は神様以上の存在だ」と親方が仰つた。

僕は専門家にそういう風に言われて、改めて先生の凄さを身内として感じさせてもらつたんですけど。

丹羽：私の仲間も糖尿病でね。血糖値がどうのこうのと言つてるんだけれど、この連中は守らないですね。タバコは吸う、お酒飲む。それから肉をバカバカ食べる。

丹羽：やつぱり歩くとかね、守らなきやいかんよ。何にも守らんかったら、ようもならんですよ、ただSODだけだつたら。

白井：先生のように30分以上歩くとかね。いつも先生が仰つている、四つの健康指針といふものをきちんと守るといふことにプラス、SOD。これを一緒にやつていかないといけない。

丹羽：それをやつて初めて健康になる。それもせず、肉ばっかり食つてたらとんでもない。折角SODをたくさん飲んでいても、じつとしどつたら回転せんわ。

白井：健康指導員とか、ヘルスアドバイザー。何かそういう指導員養成講座を、今年から始めていこうと思うんですけど。丹羽式免疫療法にのつとつた指導員という形でね。その意味においては、やつぱり免疫力を高めると

いうことが一番の前提として説得していくと

いうのが必要だと思うんです。

丹羽：努力、努力、努力、努力。

白井：努力、努力しかない。先生がずっと努力を続いているように、我々も努力を続けろ

ということですね。



丹羽：第三次元になるけど、人間って弱いからね。やっぱり信仰だな、神様のな。神様に

守られているという信念がないと、動搖するからな、人間ってな。何をやつても後ろから神様が守ってくれていると思うと、絶対元気に生きていける。そういう信仰の元にね、色々なことやるわけだね。それがないと搖らぐわね、やつていることがね、どうしても。

白井：先生が搖らがないというのは、そういうことなんですね。

丹羽：健康じやね。



白井：なるほど。まずは我々のめざすところは健康経営。これはかつて現れていない新しいマーケットなんですよ。企業が本格的に健康に投資をするという時代を迎えたとき、巷に数ある健康食品や、最近、トクホと呼ばれるものや薬業業界もみんな、健康経営をめざして商品開発に必死になつていて。

先生はSODを開発して30年も経つているんですね。私はその年月の中でどこかの企業が膨大な費用と労力をかけて新薬を開発、特に炎症という免疫不全のものに関しては一生懸命やつていますから、特効薬が出てくるだろうと思いつながら、30年が経つてしまった。丹羽：化学薬品は特効薬が出れば出るほど、副作用が出るわな。新薬、良い薬は必ず副作用がある。副作用がない化学薬品は無い。一番手つ取り早い話がキメラだな。

キメラのターダゲッティング療法。分子標的治療薬ね。精製していいのが出来れば出来るほど副作用が強くなる。今、厚生省がやつて

いる分子標的治療薬は安全だから逆に効かんわね。

白井：安全なら効かない。効けば副作用。これ今の要する対症療法の致命傷ですね。

丹羽：化学薬品の基本的欠陥や。副作用で体が潰される。いい細胞も潰されるからね。

白井：先生は28年前から同じことを仰つてゐるんだけど、今になつてもそれは基本的に変わらないのですか。

丹羽：いつの時代でも同じこと。それから抗癌剤以外でも免疫抑制剤とかね、色んなのが出てくるけど、出来れば出来るほど副作用があるわな。新薬が出来ていて、その度に副作用もレベルが上がつとるな。

白井：ちょっと難しい話になるんですけど、先生、人類愛として命が大切か、人の臓器をもつて生きながらえることが幸せか。

丹羽：もちろん臓器移植はね、SODで落ちるんや。自然なことじやないから。分かるよね、いい免疫で抑えられるから、拒否反応が正常なんや、臓器移植は。自分以外の敵が入ってくるからね、落とすのが当たり前なの。

SODを飲んだら免疫力が強くなつて落とすから、免疫力抑制剤で正常な免疫を抑えないと臓器移植できない。だから、抑えちゃうから、いいほうを。それで生きてるのがすごく異常状態ですよ。

白井：臓器移植の人には、SODはあまり良くない？

丹羽：死ぬよ！臓器移植の人にSODを飲ま

せばからそうやつた。昔、心臓移植やり出したてな、30年ぐらい前。それでSODを飲んで悪くなつて、死んじやつた人がおつた。自然に反する方向での医学をやつとつたら、わしの薬を飲んだら逆行してしまう。恐ろしい、恐ろしい。

白井：それは正に命のやり取りになつちやいますね。先生自身、臓器移植についてはどういう風に考えられています？

丹羽：もう絶対ダメだ。

白井：許せない？ それはもう私も同じですけど。自然の仕組みに反しますよね。だから僕は先生とこうやって知り会つて、船井さん以来、意識の勉強をして、輪廻転生というのを100%信じるようになりました。

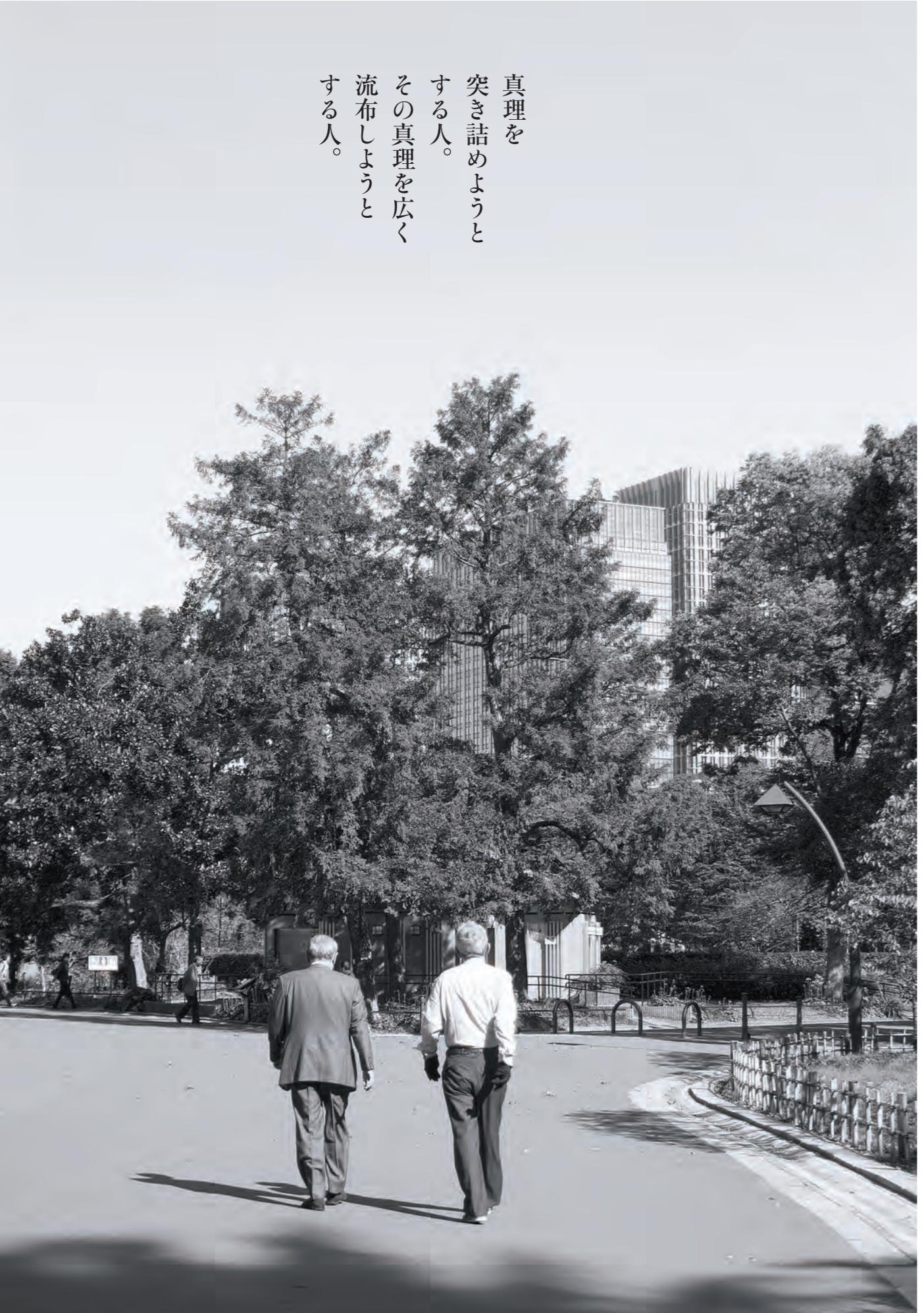
丹羽：それにも当たはまるわな。

白井：基本的には、いつもこうやって先生とお話ししながら28年間、ずっと断片的に話を聞いてきたのですが。

先生から伺いたいことをどのように聞き出すか、というのもなかなか難しくて。最後に一つだけ聞かせてください。先生の医療の向性は、この先どのような方向に進まれるのですか？

丹羽：何十年変わらずだよ。

白井：いいですね。それでこそ、丹羽耕三の生き方です。先生とは久しぶりの対談でしたが、ぶれていない先生を知つて安心しました。本日はどうもありがとうございました。



真理を  
突き詰めようと  
する人。  
その真理を広く  
流布しようと  
する人。